

2020年度居住支援セミナー実施報告書

実施日	2020/10/24(土)	場所	講座	ワンダースクエアドリームズ
時間	14:00~16:30		託児	なし
講座内容	「住む」からはじめるひとり親家庭の支援			
講師	NPO法人リトルワンズ 代表理事 小山訓久 氏			
レジュメ	あり(Rin ・ 講師) なし			担当者
プロジェクター	あり(Rin ・ 講師 ・ 会場) なし			幸村・久野
PC	あり(Rin ・ 講師 ・ 会場) なし			
託児者	(なし)	Rin	人	他() 人

その他備品

体温計・アルコール手指消毒・名簿・会場の利用申請書・レジュメ・講師飲料水・講師名札

参加者数 33 名 うちオンライン4名	議員(日進市、みよし市、長久手市、東郷町)、自治体職員(生活困窮、母子生活支援等)、不動産関係者、民生委員、NPO職員、学生等
------------------------	---

内容

■子育て支援のNPOがなぜ居住支援をはじめたのか

- ・子育て支援と居住支援は大きく乖離するものではない
- ・子育て家庭にも住む権利があり、子育て支援も居住支援も人間の尊厳にかかわること
- ・その中で、今回の講師との出会い。住まいの支援の仕方について聞く。

■「住む」からはじめるひとり親家庭の支援

- ・「安心して継続的に住むところ」なので、まちづくりやその方の人生にもかかわる。
- ・住宅確保要配慮者の内、“ひとり親家庭支援”に力を入れているが、特化ではない。
- ・ハード（建物）は連携して準備してからの支援も。継続的に。
- ・日本のシングルママは8割が就労
- ・「制限」はある。内覧して治安など周辺環境もみる。
- ・誤解をとくには、まず伝える。信頼のある者が伝えると伝わりやすい。信頼の証明
- ・国にも働きかける。わかってもらえると活動しやすい。
- ・「家」のことだけじゃない。相談者もまわりも助かる支援。
- ・多くのところとの連携で、できることが増えるし、つながる。
- ・コロナで通年よりも相談増。年に120件ぐらい相談で半分マッチングが、9月までに66家庭マッチング。
- ・メリットとリスクと考え、リスクヘッジが重要。連携して少しずつ担当する。
- ・空家対策だけでなく、社会貢献と資産運用を呼びかけ
- ・協議会は、困難なら県のを使う。
- ・子育て家庭、高齢者、障害者の3本柱
- ・シェアハウスはご近所の理解が大変 道路が狭いというものもある
- ・地域性があるので地元の団体にレクチャーしている。
- ・居住支援はSDGsとも関連がある。

■質疑応答

